

授業概要

英語学（各論）では、言語学の下位分野の一つである「統語論（語と語がどのように組み合わさって文が作られているかについて研究する学問分野）」を学んでいく。私たちが普段話している文は、単語がただ同列に並んでいるだけのものではなく階層的な構造を持っている。この授業では英語のさまざまな文の分析を通して、(1)人間言語の文には階層構造があるということ、(2)英語の文がどのような構造をしているのか、(3)「束縛理論」という統語規則によって同一解釈を受ける時の名詞句の分布が説明できるということ、について講義する。

授業計画

第1回	オリエンテーション、統語論とは
第2回	統語範疇 1（名詞、動詞、形容詞、副詞）
第3回	統語範疇 2（決定詞、時制、補文標識）
第4回	構成素 1
第5回	構成素 2
第6回	句構造規則を使った文の構造 1（副詞句、形容詞句の構造）
第7回	句構造規則を使った文の構造 2（名詞句、動詞句の構造）
第8回	句構造規則を使った文の構造 3（簡単な文の構造）
第9回	句構造規則を使った文の構造 4（あいまいな文の構造）
第10回	句構造規則を使った文の構造 5（複文、疑問文の構造）
第11回	句構造規則を使った文の構造 6（まとめ）、構造関係
第12回	束縛理論 1（指示表現の分布に関する理論）
第13回	束縛理論 2（代名詞の分布に関する理論）
第14回	束縛理論 3（演習とまとめ）
第15回	まとめ
第16回	筆記試験

※ 授業の内容、進度は状況に応じて変更されることがある。

到達目標

- ・人間言語の文には階層構造があるということを理解し、英語の基本的な文の統語構造を描くことができる。
- ・同一解釈を受ける名詞句が文中のどのような位置に現れるかについて、統語構造と束縛理論を使って分析できる。
- ・英語の分析を通して、論理的・科学的な思考能力を身につけるとともに、英語という言語に対する理解・興味を深めることができる。

履修上の注意

統語論は論理的・科学的な思考方法が必要な積み上げ型の学問分野である。少しでもわからないことが出てくるとそれ以降の授業についていくのが難しくなるので、毎回、授業では講義をしっかりと聞き、自分の頭でよく考えて、わからないことは積極的に質問するようにすること。

英語学の基礎知識を前提として講義を行うので、英語学（概論）を履修していることが望ましい。

予習復習

- ・予習：次回の授業範囲の資料やハンドアウトに目を通し、指示された問題を解いておく。
- ・復習：授業でわからなかったところは次回の授業までにクリアしておくか、疑問点をよく整理しておく。また、授業で扱った問題は家でもう一度解いて復習しておく。

評価方法

授業内での発表、提出物、授業で随時行う小テストの結果を平常点として点数化し、筆記による定期試験の結果と合わせて評価する。

平常点 40% 定期試験 60%

テキスト

教科書は使わない。作成したハンドアウトや資料を配布して授業を行う。